

授業改善推進中期プラン 国語〔小学校第4～6学年〕

昭島市立玉川小学校

学年等		項 目	内 容
令和4学年	令和2年度 10月	学習に関する児童の実態・課題	・全国平均より全体で2.3%下回っている。 ・内訳は、「話すこと・聞くこと」は1.8%、「書くこと」は1.7%、「読むこと」は2.5%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は2.4%下回っている。 ・基本的な学力が定着できていない児童が多いので、基礎的な事項について家庭学習等において改善していけるようにする。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・学年配当の漢字を正しく読み、使える力。 ・大事なことを捉えて読む力、話を聞く力。 ・調べた結果を基に文章を書く能力。 ・文章を適切に区切り、接続詞などを用いて伝えたいことをより分かりやすく書く力。
		具体的な授業改善の方策	・言語文化に慣れ親しむため、辞書を使って言葉を調べたり、分からない言葉を分からないままにするのではなく全体に発信していき、みんなで共有しながら身に付けさせる。 ・国語だけでなく、様々な教科のグループ学習で、双方向のやりとりを通して自分の意見を表現する経験を増やし、友達の見解に対して自分の意思を伝える習慣を身に付けさせる。 ・社会科の学習で調べてきたものを関連付けて、国語の学習で文章化させ、表をもとに文章を書く活動を増やす。 ・資料を読み取ることができるようにする。
	年度末	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	・「聞くこと・話すこと」「読むこと」に関しては、相手意識をもって取り組む必要がある。 ・「漢字」と「言語」に関する学習が全国平均を大きく下回っている。モジュールの時間を活用して、漢字の書き取りを定期的に行い、定着を図る必要がある。また、日々家庭学習で課題を出し、繰り返し取り組むことが必要である。 ・言語文化に慣れ親しむため、辞書を使って言葉を調べたり、分からない言葉を分からないままにするのではなく、交流会などを通して、共有しながら身に付けさせることを意識した学習を心掛けていく必要がある。
令和5学年	令和3年度 10月	学習に関する児童の実態・課題	・「読むこと」 ▲読書が好きな児童が多い。大体の粗筋はつかめるが、深く読み取ることができていない。 ・「書くこと」 ▲伝えたいことをはっきりさせたり、順序立てて書いたりすることに課題がある。 ・「言語」 ▲ノートや日記に既習の漢字を使って文章を書かず、習得できていない。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・学年配当の漢字を正しく読み、使える力。 ・大事なことを捉えて読む力、話を聞く力。 ・調べた結果を基に自分の考えを文章を書く能力。 ・文章を適切に区切り、接続詞などを用いて伝えたいことをより分かりやすく書く力。
		具体的な授業改善の方策	・深く読み取るために、説明文では言葉の意味を正確に調べ、筆者の主張と具体例を明確にさせ自分の考えをもたせる。物語文では登場人物の心情や関係性を捉え、テーマを明確にさせる。 ・5W1Hを意識させて、詳しく、具体的に書くようにさせる。 ・辞書を活用し、言葉の意味や正しい漢字を書けるようにさせる。
	年度末	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	・文章を深く読み取ることに課題がある。 ・伝えたいことをはっきりさせたり、順序立てて書いたりする必要がある。 ・ノートや日記に既習の漢字を使って文章を書いていないため習得ができていない。漢字の書き取りを定期的に行い、定着を図る必要がある。
令和6学年	令和4年度 10月	学習に関する児童の実態・課題	・「読むこと」 ▲登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができていない。 ・「書くこと」 ▲「漢字を文の中で正しく使うこと」、「漢字や仮名の配列に気を付けて使うこと」に課題がある。 ・「言語」 ▲話し言葉と書き言葉の違いを理解することに課題がある
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・異なる立場からの考えを聞き、様々な視点から検討した上で、自分の考えを広げられるようにする。 ・読み手に自分の考えを明確に伝えるために、自分で書いた文章を読み返し、文や文章を整えることができるようにする。
		具体的な授業改善の方策	・話し合いを通して、言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気付かせる。 ・内容や表現に一貫性があるか、目的に照らして適切な構成や記述になっているか確認させる。 ・他者、自分の文章の良いところを見付けさせる。 ・既習漢字を文中で正しく使えるようにする。
	年度末	小学校6年間のまとめと中学校への引継事項	・タブレットの活用機会が増え、漢字変換に頼る場面が多くなり、ノートやプリントに文章化する際の既習漢字の活用が不十分である。普段の学習から、既習漢字を必ず使えるよう、友達と確認したり辞書を活用したりするなどの工夫した取り組みが必要である。 ・書き出しの表現を示したり、文章構成の型を指導したりすることで、苦手意識を減らしていくように工夫してきたが、まだ構成を意識して文章を書くことが難しい児童がいる。

授業改善推進中期プラン 算数〔小学校第4～6学年〕

昭島市立玉川小学校

学年等		項 目	内 容
令和2年度 第4学年	令和2年10月	学習に関する児童の実態・課題	・「数と計算・数量関係」において計算ミス等が見られる。日頃から、は➡速く・か➡・簡単に・せ➡正確に、問題を解くことを意識させる必要がある。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・課題の定着を図るための手だてとして、課題➡自力解決➡話し合い➡振り返り➡まとめといった、学習の流れを定着させる。
		具体的な授業改善の方策	・自分で間違った場所を確認し、直す習慣と、具体的に「何が間違ったのか」を吹き出しにして赤で書くなどの方法を身に付けさせ、同じ間違いをしないような意識付けを行う。
令和3年度 第5学年	令和3年10月	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	・数と計算や数量関係において、プリントや計算ドリルを活用して、基礎基本の徹底を行い、学習評価テストでの単元学習の学年平均が70～80点ほどであった。 ・単元学習評価テストの平均点80点台を目指すために、計算のスキルを向上していくことに着目し指導する。また、5学年での文章問題の学習や発展学習に向けても基礎基本の学習を見直す。
		学習に関する児童の実態・課題	○上位・中位の児童の多くは真面目に授業に取り組む。 ▲東京ベーシック・ドリルの4年診断テストで、立体の知識の問題の正答率が32.8%で、低かった。 ▲「小数のわり算」テストの「知識・技能」の平均が6割程度で、期待得点の8割を大きく下回った。 ▲下位の児童の一部は基本的な生活習慣が身に付いていない。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・整数の四則計算の基本を活用し、小数や分数の計算に生かしていく力。 ・三角定規・分度器・コンパスを正しく扱い、正確に作図する力。 ・課題の意味を把握した上で自力解決し、数学的に表現する資質・能力。
令和4年度 第6学年	令和4年10月	具体的な授業改善の方策	・知識・技能を身に付ける場面と、思考力を伸ばす場面を区別し、目的意識をもたせる。 ・個々の児童の学習状況を、机間指導で細かく把握し、必要に応じて通り学習に取り組ませる。 ・数直線を活用する機会を増やし、自力でかけるように支援する。 ・児童相互で発表したり話し合ったりする機会を作り、学習の振り返りに生かせるようにする。
		習熟度別少人数指導における具体的な取組	・次単元のレディネステストを行って児童の実態をつかみ、意欲的に学習できる習熟度別クラス編成を行う。 ・習熟度に関わらず、必要に応じて通り学習に取り組ませる。 ・問題提示→課題把握→自力解決→全体検討→まとめの授業スタイルを確立する。習熟の時間を必ず確保する。単元の始めと終わりには学習を振り返る時間を確保する。
		第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	・プリントや計算ドリルを活用して、基礎基本の徹底を行ったが、短期的な理解になっており、次時の単元での活用に生かすことができていない。 ・単元学習評価テストの平均点80点台を目指すために、計算のスキルを向上していくことに着目し指導する。また、5学年での文章問題の学習や発展学習に向けても基礎基本の学習を見直す。
令和5年度 第6学年	令和5年10月	学習に関する児童の実態・課題	・簡単な計算問題は理解できるが、単位の変換や公式の意味理解に課題がある。そのため、既習事項の定着ができていない。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・基礎的な計算の仕方の理解と習得。 ・図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方について考察する力。
		具体的な授業改善の方策	・繰り返し、計算問題等をさせることで習熟させる。授業だけでなく家庭学習でも日頃から計算問題に取り組ませる。 ・日常生活と関連させながら、具体的な場面に対応させることを通して、意味理解ができるようにする。 ・具体物の活用を通して、図形の構成の理解を深める。
令和6年度 第6学年	令和6年10月	習熟度別少人数指導における具体的な取組	・次単元のレディネステストを行って児童の実態をつかみ、意欲的に学習できる習熟度別クラス編成を行う。 ・習熟度にかかわらず、必要に応じて既習の学習に取り組ませる。 ・問題提示→課題把握→自力解決→全体検討→まとめの授業スタイルを確立する。習熟の時間を必ず確保する。単元の始めと終わりには学習を振り返る時間を確保する。
		小学校6年間のまとめと中学校への引継事項	・基礎・基本の定着を図るために、繰り返し既習事項の復習を行い身に付けさせてきたが、時間が経つと忘れてしまうことが多くあった。 ・友達同士で問題を教え合う時間を一定時間とることで、集中して学び合いを行うことができた。